

横浜市立汐入小学校

平成28年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○一人ひとりの子どもが、夢中になって取り組む学習づくりを推進し、友達と支え合いながら安心して課題解決に取り組む、粘り強く最後までやり遂げる力を付けられるようにします。</p> <p>○一人ひとりの子どもが、他者の気持ちを思いやり、温かい人間関係の中で安心して学校生活を過ごせるようにします。</p> <p>○教職員が、同僚と学び高まりながら仕事を遂行する力の向上と、同僚と連携し合う活気ある運営組織の確立を進めます。</p> <p>○地域・家庭のニーズを確かに捉え、小中一貫教育ブロックや家庭・地域と連携した実践と、学校評価による改善を通して信頼される学校づくりを進めます。</p>	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導) 担当 指導部	だれもが夢中になって取り組む学習づくりを通して、粘り強く最後までやり遂げる力を育てます。	①ペアやグループといった学習形態での児童同士の聴き合う関係や支え合う関係づくりを目指します。 ②聴き合う関係や支え合う関係を礎にして前向きに授業に参加し、問題解決に臨めるようにします。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析
 全体的に横浜市の平均を下回る。それに準じて標準化得点も下がる傾向にあり、学年によってばらつきがあるものの4教科とも89から99ポイント内である。学習意識の「好きか」では、4教科とも市平均とほぼ同じであり、生活意識の「勉強が好きか」の結果からも同様の結果が認められることから、児童は達成感や成就感を味わいながら授業に臨んでいることが分かる。しかし、「授業が分かるか」では市平均より12ポイント低く、「分かる、できる」を実感できる授業づくりが求められている。また、学力層を見ると、4教科とも6割の児童がC層とD層に分布しており、個別対応より、少人数指導が求められる状況であり、学習形態の対応も工夫しなければならない。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：基礎・基本より活用の力が上回る。「書く」「話す・聞く」に課題がある。
- 算数科：活用の力が上回る。「技能」「考え方」が「知識・理解を上回る。
- 社会科：活用力がわずかに基礎・基本を上回る。「思考・判断・表現」の向上が認められる。
- 理科：「技能」の向上が認められる。活用力に課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）
 平成26年度から、学校全体として学力、学習意識・生活意識ともに向上してきている。生活意識の「自分の考えを発表しているか」ではここ2年間「よくしている」が増えてきたものの「していない」も微増している。学習意識での各教科にある「話し合う」「説明する」「表現する」といった問いでも理科を除いて微増しており、特に算数では市平均に迫っている。「学習が楽しい」と感じながら前向きに授業に参加する児童が、学び合いを通してコミュニケーション能力を身に付けてきたと考えられるのだが、児童が「分かる・できる」と実感できる授業づくりを土台に、言語活動の充実を図っていく必要がある。

3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

1学年

- 分からないこと、詳しく知りたいことを友達に尋ねる関係を育み、聞き取る力や読み取る力を補い合う関係の中で安心して学習を進めていく。
- 様々な教科学習を通して、説明する文や紹介する文に触れ、読んだり書いたりする表現活動を経験させると共に、学び合う場면을意図的に設ける。

2学年

- 大事だと思ったことを確かめ合ったり、関連した情報を提供し合ったりしながら、ペアで自信をもって学習を進めていく。
- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えるために報告する文や説明する文を書くなどの表現活動を大切にするとともに、学び合う場면을意図的に設ける。

3学年

- 列挙したり、順序付けしたりして考える学習、理由や根拠を尋ねたり、まとめたり、補足したりする学習をペアで進めていく。
- 社会科等で見学・調査したことを説明する文、記録する文を書くなどの表現活動を大切にするとともに、学び合う場면을意図的に設ける。

4学年

- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習、反対の意見を話し合ったり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べ合ったりする学習を、3～4人の小グループで進めていく。
- 算数・理科等で説明する文、記録や報告をする文を書くなどの表現活動を大切にするとともに、学び合う場면을意図的に設ける。

5学年

- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習、相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりする学習を、3～4人の小グループで進めていく。
- 総合的な学習等で説明する文、意見を述べる文を書くなどの表現活動を大切にするとともに、学び合う場면을意図的に設ける。

6学年

- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習、曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりする学習を、3～4人の小グループで進めていく。
- 様々な学習で今まで身に付けた多様な種類の文を書く力を生かすとともに、学び合う場면을意図的に設ける。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場면을設ける。
- 各学年と連携しながら、子どもの発達段階に応じ取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行う。

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。
- 列挙したり、順序を付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 反対の意見を出したり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合うように指導する。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

5 学年

- 『横浜の時間』等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合うよう指導する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。